

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 5月 15日

【評価実施概要】

事業所番号	2090100062		
法人名	高田産業有限会社		
事業所名	グループホーム太陽		
所在地	長野市富竹936-1 (電話) 026-295-5262		
評価機関名	コスモプランニング有限会社		
所在地	長野市松岡1丁目35番5号		
訪問調査日	平成20年5月13日	評価確定日	平成20年6月12日

【情報提供票より】(平成20年 5月 9日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成19年 4月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 11人, 非常勤 5人,	常勤換算10.8人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2 階建ての ~ 1 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	10,000 円
敷 金	有 (円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 450 円
	夕食	450 円	おやつ 食事代に含む
	または1日当たり 1,200 円		

(4) 利用者の概要(平成20年 5月 9日現在)

利用者人数	18 名	男性 7 名	女性 11 名
要介護1	2	要介護2	5
要介護3	5	要介護4	5
要介護5	1	要支援2	0
年齢	平均 82.1 歳	最低 65 歳	最高 98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	・ 轟病院
---------	-------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

長野市中心市街地から北へ、市民病院の近くにホームはある。建物は太陽の色、温かい黄色である。入居者が住みなれた地域で自分らしく暮らすことを支え、地域に開かれた家づくり、入居者とその家族が安心できる場所づくりに励み続けて一年が過ぎた。24時間365日協力医療機関の医師との連携が確保され、重度化した場合や看取りは入居者家族の意向に沿いながら取り組んでいる。以前住んでいた所へ行ってみたいとの声を聞けばドライブがてら外出し入居者の気持ちに添えている。職員の口ずさむ歌に誘われて入居者が一人また一人と歌う様子は心が和らぎ、ゆったりとした時間の流れを感じる。入居者一人ひとりの生活を子供や家族に成り代わり支援している。ホームの地元地区・富竹の太陽を目指し一生懸命に取り組んでいるホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>今回が始めての評価である。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回、始めて自己評価を行った。今後も定期的に自己評価を行い、職員の資質やサービスの質の向上等に活かす意向である。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>初めての推進会議が開かれたところであり次回は6月を予定している。会議ではホームの紹介と活動内容の報告を行い、ホームが地域の一員となり、家族や地域に開かれた家づくりを目指すことを説明し、協力をお願いしている。参加者メンバーからは住民とホームをつなぐパイプ役を担いたいという力強いコメントを頂いている。有意義な双方向的な話し合いになるように毎回テーマを決め定期的に会議を開催したいと積極的に取り組んでいる。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>入居者家族にとって要望や意見、不満は言いにくいからと職員側から積極的に話しかけて気軽に何でも話せる関係作りに努めている。毎月発行の“太陽通信”を通してホームでの様子を詳しく報告することに努めている。食生活に関しては今後ご家族に献立表で報告することを検討している。出された意見や要望等に関しては改善に努め運営に役立てられている。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>開設のために事業について説明した時、地域の方々からは快く賛同を頂いている。ホームで行われる行事は回覧板や職員が直接各戸を廻るなどして知らせている。幼稚園児や小学6年生の訪問、また、様々なボランティアの訪問があり地域との交流には積極的に取り組んでいる。</p>
重点項目④	

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者一人ひとりが自分らしく暮らし続けられるように「家庭的な環境と住民と交流の下で」を理念に掲げ、家族や地域に開かれた“家づくり”を目指している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	採用時には必ずホームの理念や方針を伝え、意識づけをしている。朝夕の引継ぎ時や日々のカンファレンス、毎月の会議等職員の集まる機会に、提供しているケアが理念に基づくものなのか話し合い、確認し、理念の共有を図っている。	○	理念の実現に向けて、話し合い、確認したことを全職員が更に意識しながら実践されることを望みます。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	フルーツ演奏会を開いた時は地域に回覧板で知らせ、近所の方も一緒に聞いている。夏祭りは職員が各戸を廻り知らせている。餅つき大会では近所にお餅を配った。幼稚園児の訪問や小学6年生の毎週の訪問がある。歌や踊りなど様々なボランティアの訪問があり地域との交流は積極的に行っている。地域のお祭りや運動会など行事がある時には何時も誘われている。		
ari					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義や目的について説明を受けた上で自己評価に全員で取り組んだ。開設後の一年間を振り返り日々のケアの見直しを行った。自己評価は今後も定期的に行い、サービスの質の向上に活用したいと前向きな姿勢であった。		

グループホーム太陽

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	第一回推進会議が開かれたところである。会議ではホームの紹介や活動内容の報告と意見交換が行われた。参加者メンバーからは地域に開けたホームづくりのために住民とホームとのパイプ役になりたいという協力的な意見も頂いている。毎回テーマを持ち定期的に会議を開催したいと積極的に取り組む様子が窺えた。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	分からないことや困ることなどがあれば市の担当者に何でも気軽に相談している。担当者の指導や助言はとても助かっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	暮らしぶりは毎月発行の“太陽通信”で写真を通して報告している。健康状態など個別なことは来所時や電話で伝えている。金銭に関しては毎月の請求時に個別の収支の記録、領収書等、併せて家族に確認してもらっている。職員の異動については通信でも伝えている。食生活に関しては献立表などで報告の予定である。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者家族にとって要望や意見、不満は言い出しにくいことなので職員側から積極的に話しかけて気軽に何でも話せる関係作りに努めている。要望や意見が出された時には全職員で話し合い、運営に反映させている。投書箱を設置しているが、今のところ意見等が投函されることはない。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者が穏かに安心して生活が出来るように馴染みの職員による支援を重視している。離職等により職員の交代があったが、その都度入居者に紹介し、少しでも早く馴染みの関係になるよう努めている。各ユニットの職員は原則的に固定している。		

グループホーム太陽

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	開設に向けて職員は2ヶ所のグループホームにおいて交代で研修している。社内研修は職員がテーマを決めて時々行っている。社外研修は交代で参加しているが報告会は開かれていない。	○	社外研修に全職員で参加することは困難なので研修報告書や資料を提出し全職員が閲覧したり、研修報告の機会を設けて研修内容を共有できるように取組まれることを望みます。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	北信地区連絡会に出席したり、市内のグループホームや介護サービス事業所とも情報交換をしている。今後、相互交流の機会を設けて職員育成やサービスの質の向上に取り組もうとしている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人、家族にはホームでの生活の様子や雰囲気を実際に見てもらってから利用について相談し、その上で利用を開始している。入居後しばらくの間、本人の様子を細かく家族に報告している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者一人ひとりの生活歴や習慣、得意なことを職員は把握している。日々の生活の中で入居者の得意分野で力を発揮してもらっている。入居者を人生の先輩と尊重し、よりよい関係作りに努めている。	○	入居者は人生の先輩であるという考えを全職員が確実に共有し、「一緒に過ごしながらか入居者から知恵や技を学び、共に支えあう関係」が更に築かれるよう望みます。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者その日どのように過ごしたいのか、何をしたいのか入居者の話やしぐさから把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	個別の介護計画が立てられるように受持ち担当制にし、職員全員で話し合い作成している。入居者や家族の意向を反映させるようにしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月の定期的な見直しのほか、入居者本人の状態変化などがあれば検討して見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院や買い物、理美容院、入居者が以前住んでいた場所や行ってみたい所など希望があれば家族に代わり付き添い、柔軟に支援を行っている。		

グループホーム太陽

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医療機関と入居前からの医療機関の診療が受けられるように支援している。かかりつけ医をホームの協力医に変更する場合には紹介状を協力医に提出し、入居者、家族が相談して決めている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末に対するホームの方針は定められている。入居者の状態に変化があったときには入居者家族、医師、管理者が話し合い相談している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄の声かけをしたり、得意なことや役割を促す時には一人ひとりに合うよう対応している。個人情報の保護や守秘義務に関しても学習会を開いており、全職員がプライバシーの保護、個人情報の漏洩防止等の徹底を図っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の予定はおおまかに決まっており、その日その時の入居者の体調や気分などに配慮しながら入居者のペースで生活できるよう柔軟に支援している。		

グループホーム太陽

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と一緒に食事の準備をしている。野菜の皮むきや盛付け、片付けや洗い物など入居者の出来る範囲で力を発揮してもらっている。職員は入居者と食事を共にしながら和やかな雰囲気づくりにも努めている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	浴室の大きな窓からは空が見え、沢山の光が差し込みあたかも露天風呂に入っている気分させる。入浴は毎日希望があれば何時でも入浴が出来る。身体機能の低下があっても入浴が出来るよう設備を備えている。一人ひとりに合わせた声かけや誘導を行い、気分よく入浴できるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々の生活の中で一人ひとりが役割を持ち力を発揮できるように支援している。入居者は『これは自分の仕事』として進んで取り組んでいる。職員は無理がないよう見守り、作業が終わったときには感謝や労をねぎらう言葉をかけている。訪問時にも洗濯物干しや清拭布たたみ、広告での箱作りなどに励んでいる入居者の姿があった。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的にホームの周りを散歩したり、庭にでて日向ぼっこをしている。また、入居者の希望があれば以前住んでいた場所、見慣れた場所へ車で出掛ける支援もしている。お花見や善光寺参り、外食にも出掛けるなど気晴らしのために積極的に取り組んでいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵を掛けない支援の大切さや鍵を掛けることの弊害を理解している。日中は鍵を掛けないケアを実践している。訪問時に一人で外出した入居者を職員がさりげなく後を追ひ、しばらくして戻られた。入居者も職員も笑顔の帰宅であり、迎えた職員にも笑顔があった。		

グループホーム太陽

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難経路や消火器の扱い方を職員は知っているが、防災訓練はまだ行われていない。運営推進会議で災害時の地域との連携・協力を相談している。	○	今年度は消防署や地域の協力を受けて防災訓練や避難訓練、通報訓練を行う予定とのことであるが、年2回、昼夜をそれぞれ別々に想定した防災訓練等実施されることを更に望みます。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分量を毎日、記録に残している。職員は一人ひとりの摂取状況をおおまかに把握している。協力医療機関の医師・栄養士の指導やアドバイスを受けている。食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるように支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関をはさみ2ユニットがある。広い食堂兼居間にはテーブルセット・ソファがあり、思い思いの場所で作業をしたりテレビを見ている。音楽テープを流すユニット、職員の口ずさむ声に誘われて一緒に歌うユニットと雰囲気が違うユニットであったが職員は入居者が居心地よく過ごせるよう取り組んでいる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や仏壇、使い慣れたタンスなどの家具が持ち込まれ、また、居室のカーテンや壁紙は一部屋ごとに変える工夫もされ、入居者が自分の部屋と自覚でき安心して過ごせられるように居室作りがされている。		

※  は、重点項目。